

交通安全

子供見守り活動

安全ハンドブック



奈良県警察

はじめに

日頃は、朝夕の通学路での見守り活動や、子供の交通安全にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

このブックは、子供の学童誘導活動に従事していただいている方々に向け、基本的な安全な横断方法などの知識を掲載しているものです。地域における見守り活動にご活用ください。

見守り活動は、子供の安全を守る大切な活動です。

毎日のふれあいを通じて、子供自身が自分の身を守り、安全行動をとれるように、繰り返しの指導をお願いします。

目 次

- 1 学童誘導活動の基本的な心構え
- 2 子供の特性
- 3 大人と子供の視野の違い
- 4 車の特性
- 5 見守り活動時の服装
- 6 横断旗の安全な使い方
- 7 学童誘導要領
- 8 その他の注意点
- 9 交通事故を目撃したら…



1 学童誘導活動の基本的な心構え

1 自分自身の身を守る

横断する子供が交通事故にあわないように注意するだけでなく、自分自身も交通事故にあわないように十分に注意しましょう。

くれぐれも無理に車を止めたりすることのないようにしましょう。

2 子供を止めるのが大原則

積極的に車を止めるのではなく、子供が飛び出さないように、子供を止めていただくのが大原則です。

横断旗などを使って、走行中の車やバイクを止めることは危険です。絶対にやめましょう。



3 中途半端は禁物！

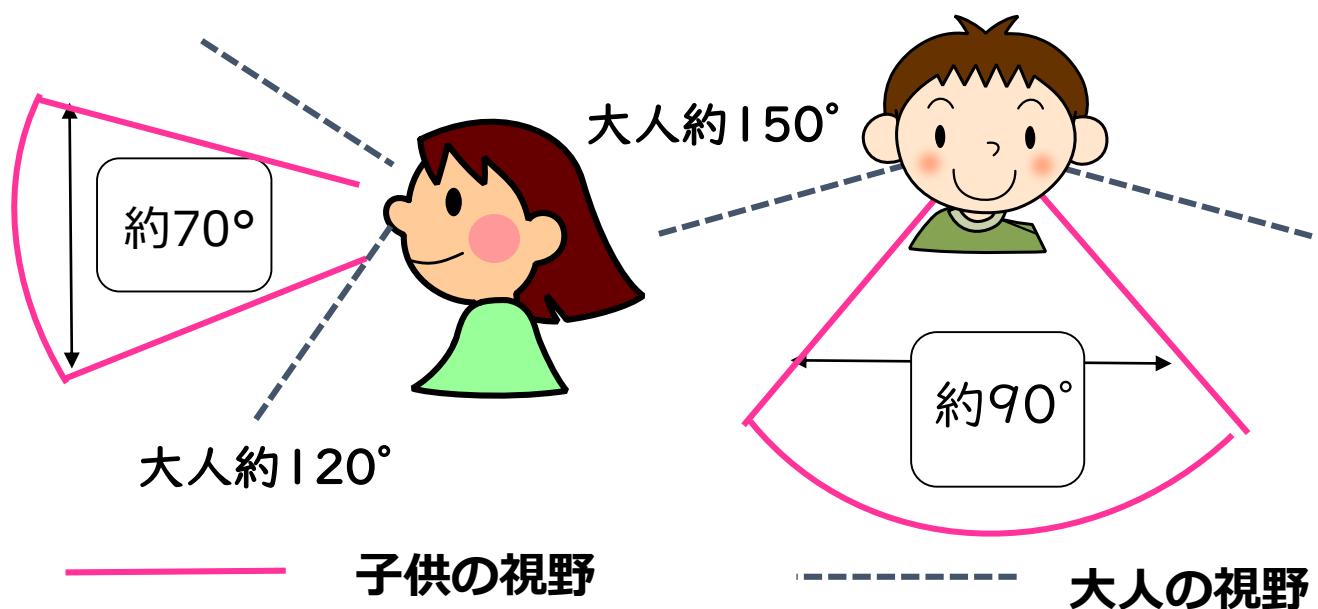
慌てたり、ためらったり、中途半端な動きが最も危険です。安全を第一に考えて行動しましょう。

2 子供の特性



- 子供、特に低学年は、大人より視野が狭く、視点も低いため、大人から見えている危険が子供には見えていないことが多いです。
- 判断を大人に依存する傾向があります。
- 子供によって、危険予測能力や危険回避能力に差があります。

3 大人と子供の視野の違い



子供から見えていない部分に注意を向けられるように
声かけや指さしをして注意をうながすことも有効です。

4 車の特性



● 内輪差

車が右左折するときに生じる内輪差

大きな車両ほど内輪差は大きくなります。

巻き込まれないように、交差点では、少し下がった場所で待つように指導しましょう。

● 車が停止するために必要な距離(秒速)

「車は急には止まれない！」



時速 30 km/h → 11.2m

時速 40 km/h → 17.2m

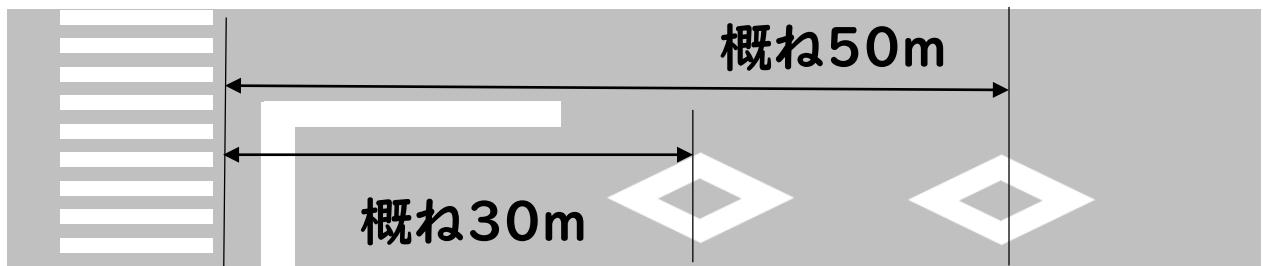
時速 60 km/h →

11.2m

17.2m

32.7m
も必要！

● 道路標示を使った距離のめやす



「横断歩道又は自転車横断帯あり」の道路標示の中央部から横断歩道の側端までそれぞれの距離

5 見守り活動時の服装

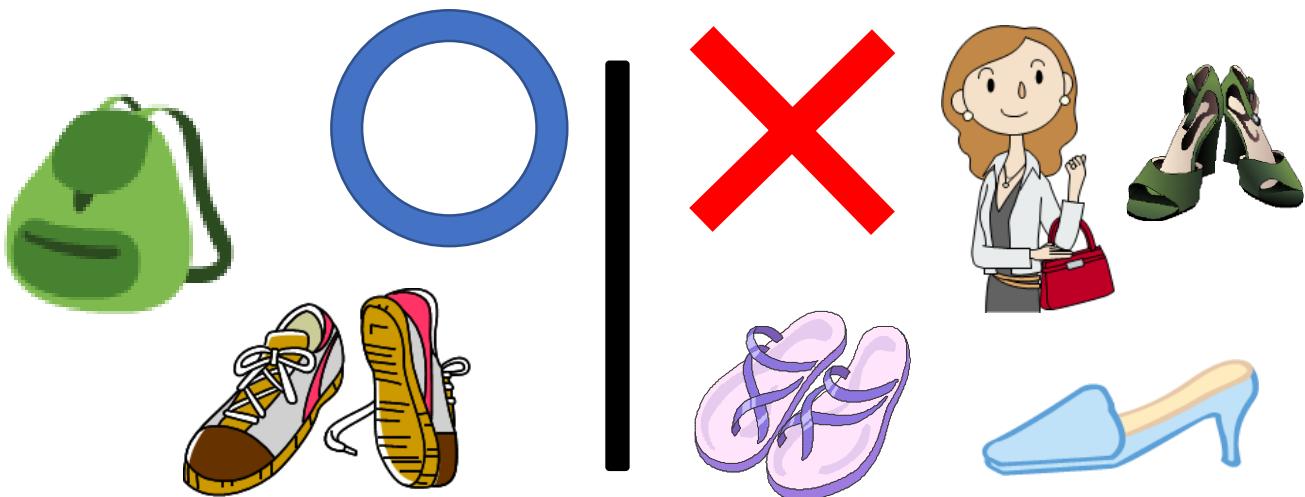


- 明るい色や目立つ服装

- 動きやすい服装

サンダルやヒールは避けて、かかとの低いスニーカーなどがよいでしょう。

- 手荷物は持たず、両手が空く状態にします。もし、手荷物がある場合は、リュックタイプにするとよいでしょう。



雨天の日は……

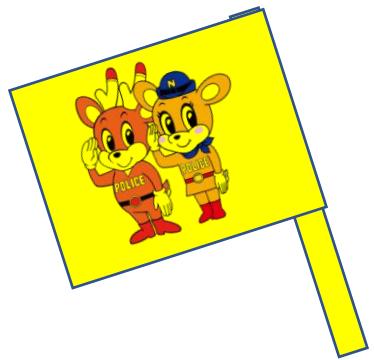
動きやすいように、カッパなどを着用しましょう。
傘のときは、透明の傘(周囲の確認がしやすいもの)やドライバーから確認しやすい明るい色の傘を使用しましょう。



雨の日は、視界が悪く、車の停止距離が長くなるので注意しましょう。

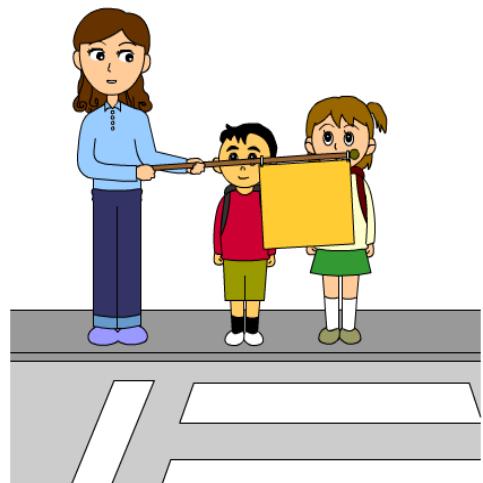
6 横断旗の安全な使い方

～横断旗を安全に使用して
有効に活用しましょう～



● 動作ははっきりと

横断旗を活用し、大きく分かりやすい動作を
しましょう。無理に車を止めたり、曖昧な動作
をすると事故につながります。



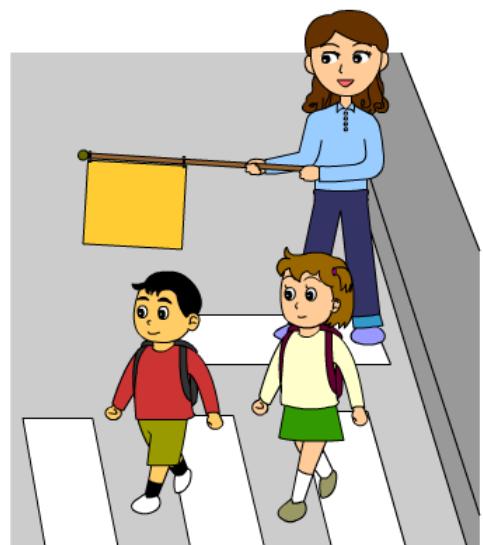
● 正しく横断旗を使う

横断旗で車を止めたり、い
きなり車道に横断旗を出すの
は、危険なので、やめましょう。

● 横断旗とともに声をかける

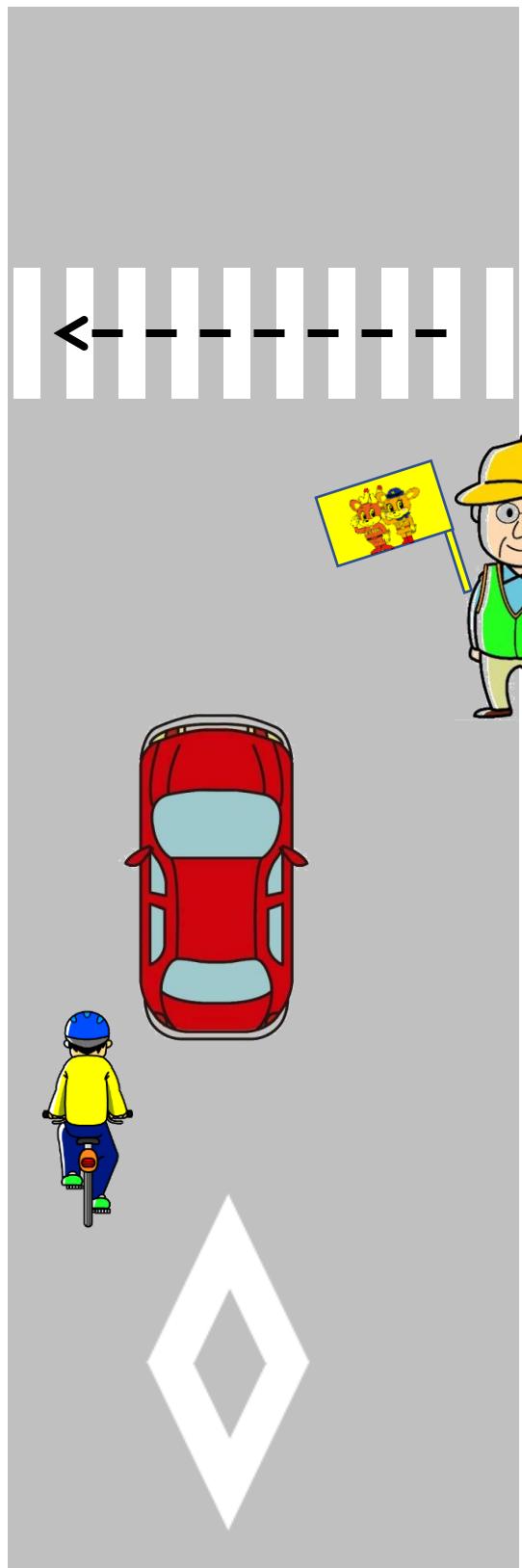
子供に分かりやすく、横断旗
と共に、

「止まってください」
「安全確認をしてすばやく
渡りましょう」
と声かけをしながら横断旗を
活用しましょう。



7 学童誘導要領

● 直線道路に横断歩道がある場合



1 立つ場所は、子供が渡り始める側に立ち、車道や横断歩道上で子どもを待たないようにししよう。



2 無理に車を止めず横断旗を活用し、大きく分かりやすい動作で、車に合図しましょう。

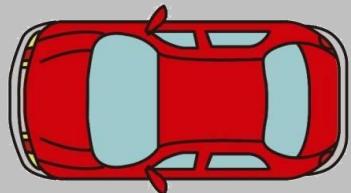
3 車が途切れるか、止まってくれるなど安全な状態になってから渡らせましょう。旗を車道に出して子供達を誘導しましょう。

4 自転車やバイクが車の陰から走行してくる場合もあるので注意しましょう。

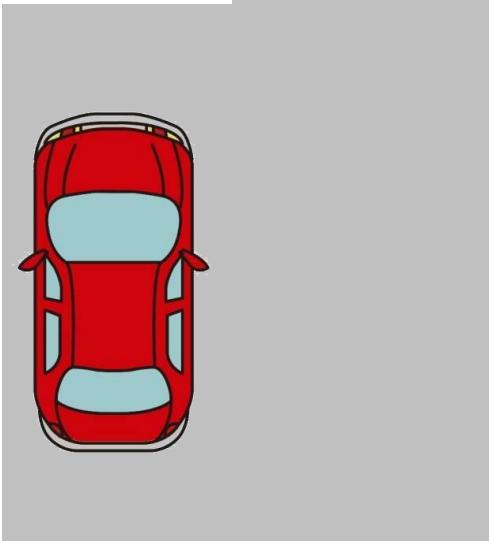
● 交差点で1人で誘導する場合(信号なし)



1 立つ場所は、子供が渡り始める側に立ち、車道や横断歩道上で子どもを待たないようにしましょう。

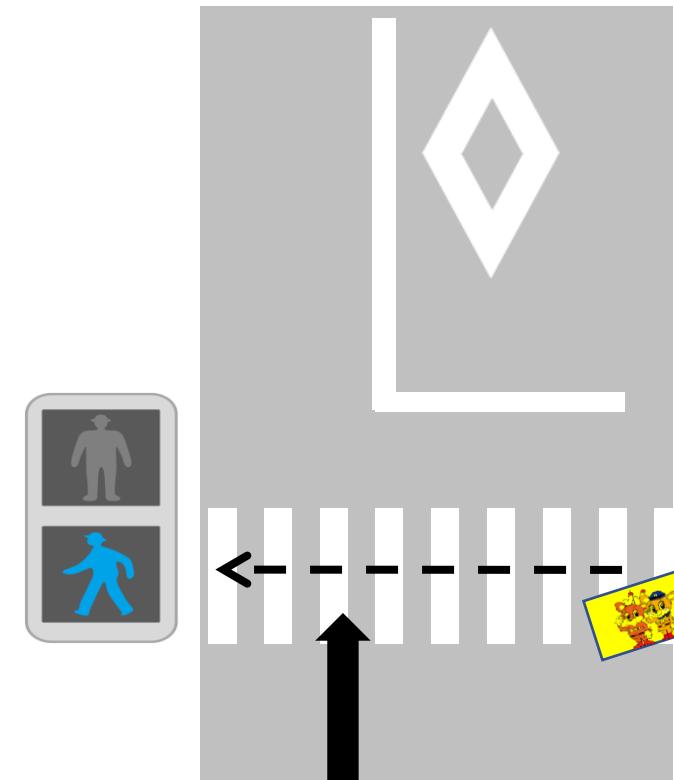


2 車が途切れるか、止まってくれるなど安全な状態になってから渡らせましょう。

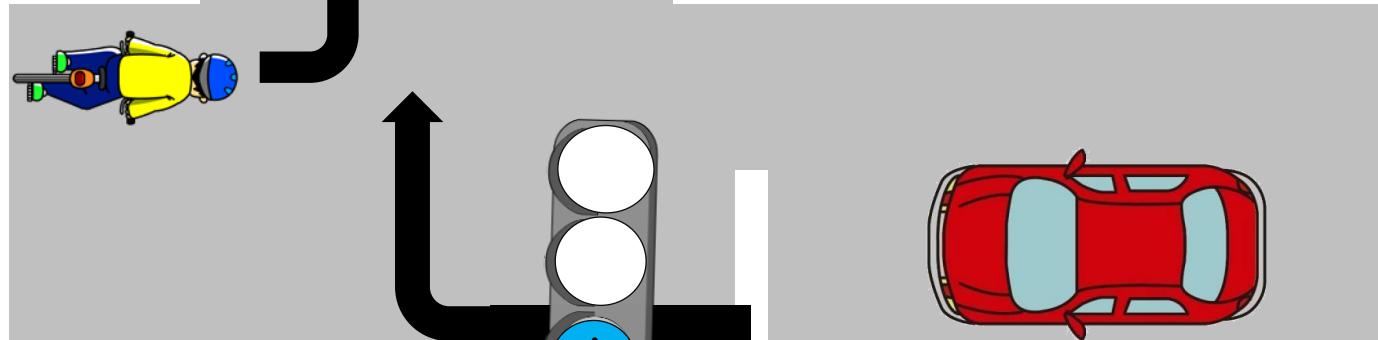


3 子供の背後などから、右左折しようとする車に注意しましょう。

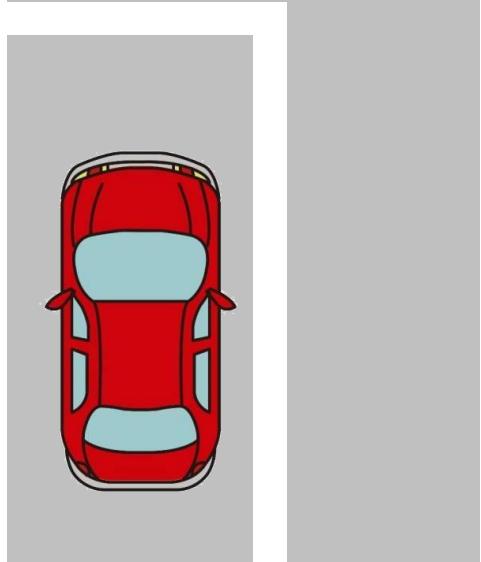
● 交差点で1人で誘導する場合(信号あり)



1 立つ場所は、子供が渡り始める側に立ち、信号のサイクルや青色の長さを事前に確認しておきましょう。



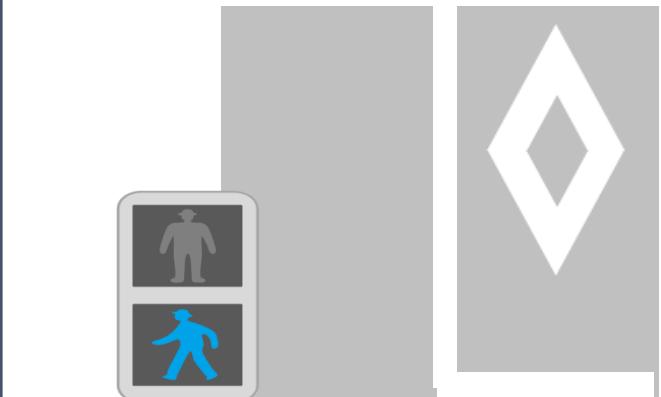
2 信号が青になるまで子供に声掛けをして道路を横断する準備や意識をもたせましょう。



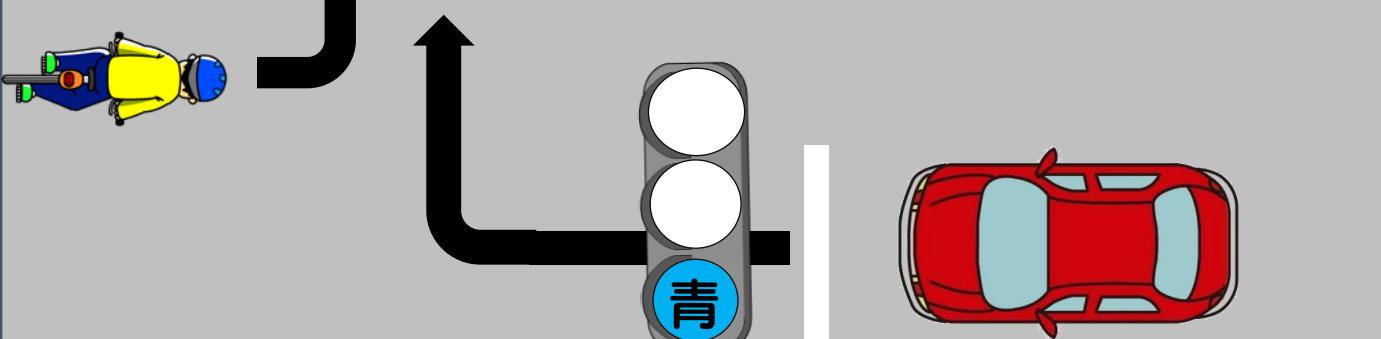
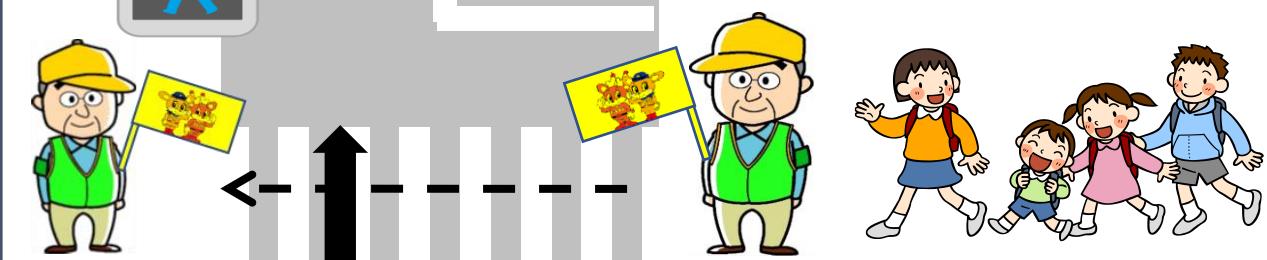
3 青信号で右左折する車に対し、横断旗で子供の横断を知らせましょう。

● 交差点で2人で誘導する場合(信号あり)

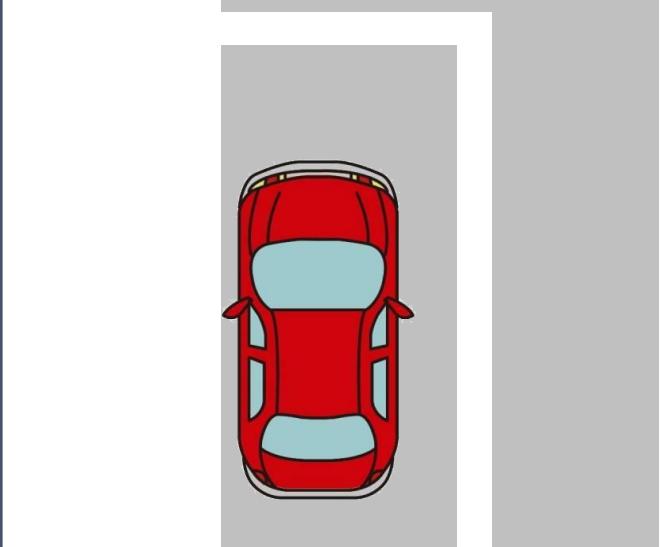
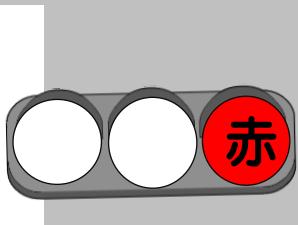
※1人で誘導する(信号あり)場合の注意点と同じ



1 渡り始める側と、渡り終える側などに分かれて立ち役割分担は事前に決めておきましょう。



2 信号が変わりそうなときは、早めに子供を止め横断させないようにしましょう。



3 渡り終える側は、横断する最終の子供と一緒に横断し終えるようにしましょう。

4 子供を手招きしたり急いで渡らせたりしないようにしましょう。

8 その他の注意点

● 子供を待たせる場所は？

横断させるとき、待たせる場所は、出来るだけ車道から離れた場所を選びましょう。

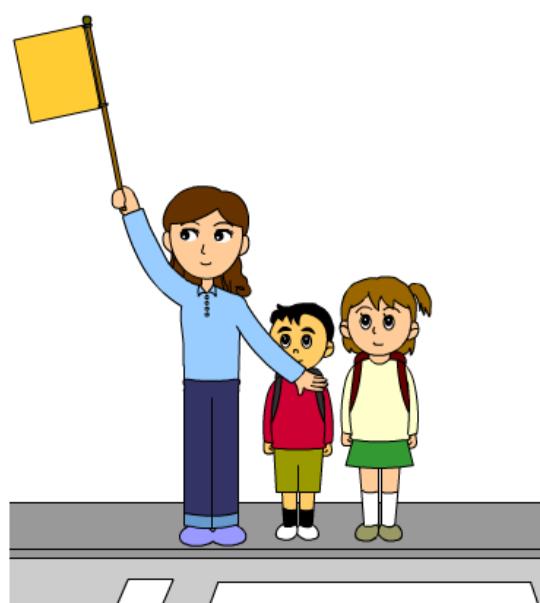
また、点字ブロック上や、歩道いっぽいに広がらずに、待機方法を考えましょう。

● ドライバーへの気配りも忘れずに！

止まってくれた車のドライバーに対しては子供が横断し終えれば、会釈するなど感謝の気持ちを表すことが思いやりの気持ちを広げることに繋がります。

● アイコンタクトをする

常に、車や子供の動きに注意して、ドライバーとのアイコンタクトなどをし、意思の疎通に心がけましょう。



9 交通事故を目撃したら…

● 負傷者の救護！

負傷者がいる場合は、救護が最優先です。

- ・落ち着いて！
- ・周りの人にも協力を求める！

救急車を呼びましょう。

● 道路上の危険防止！

二次被害を防止するため、車は路肩等の安全な場所に移動するよう指示しましょう。



● 警察への通報！

交通事故の当事者が警察へ通報できない状況であれば、代わりに通報してください。

もし、携帯電話がないときは、現場にいる周囲の人に依頼して、電話するよう協力を求めましょう。

切り取って、見守り活動のときに
携帯してください



落ち着いて

緊急連絡先

落ち着いて

警察 110

救急 119

警察署

- - 0110

小学校

- - -

幼稚園

- - -

保育園

- - -

こども園

- - -

落ち着いて

緊急連絡先

落ち着いて

警察 110

救急 119

警察署

- - 0110

小学校

- - -

幼稚園

- - -

保育園

- - -

こども園

- - -